

(第75回) プロジェクト・制度評価分科会の評価結果について



NO.	2-6			
事業名	AI チップ開発加速のためのイノベーション推進事業（終了時評価） IoT推進部			
委員構成、ポートフォリオ	委員名	NEDO委員歴		
		前身 事業	事前 評価	中間 評価
<p>Society5.0実現に向け、AI・次世代コンピューティング技術がエッジやクラウド領域において求められており、中小・ベンチャー企業等の持つAIに関する高度な技術の活用が期待されている。本事業は、これらの企業が持つアイデアを実用化するための設計開発を支援するもので、AIチップ等の設計・評価・検証等の開発環境を有する拠点の整備、チップ開発を促進する共通技術開発、IoTやAI技術の知見やノウハウを持った人材を育成する環境の整備を行う。事業継続評価の観点により前回中間評価を担当された委員を中心に、実用化・事業化に向け、半導体産業に精通した委員、LSI 設計技術と事業運営の両面で実績を有する委員を新たに選定。</p> <ul style="list-style-type: none"> 分科会長は、革新デバイス、デバイス・実装技術開発がご専門で、高性能 LSI の開発を加速する拠点構築において、評価に必要な知識とご経験を有する。 エンジニアやマーケティングのマネジメントに対する豊富な経験、経営学、半導体業界全体の戦略作り（特に、拠点の運営・経営面） 半導体・AI に関して、企業おける開発企画、技術戦略 世界の電子機器産業や半導体産業の分析 ユーザー目線での、LSI 設計技術と事業運営の両面における知見と実績 	永妻忠夫分科会長 大阪大学 大学院基礎工学研究科 システム創成専攻 教授			○
	吉瀬謙二分科会長代理 東京工業大学 情報理工学院 情報工学系 教授			○
	桑田薫委員 東京工業大学 理事・副学長（ダイバーシティ推進担当）			○
	杉岡俊明委員 株式会社ソシオネクスト グローバル開発本部 開発企画部 技術戦略推進室 室長補佐			○
	南川明委員 インフォマテリジェンス合同会社 C & Dコンサルティンググループ シニアコンサルティングディレクター			
宮森高委員 東芝デバイス&ストレージ株式会社 デバイス&ストレージ研究開発センター センター長				
評価コメント				
肯定的意見	今後への提言			
<ul style="list-style-type: none"> 拠点の構築のみならず、セミナー、フォーラムの開催、展示会への出展、学会発表、プレスへの情報発信をコアとして、拠点と利用者ならびに成果を活用したい企業とのマッチング戦略を常に意識し進化させてきた。 知的財産については、本事業で開発・整備した AI チップの設計手法、レファレンスデザイン、IP ライブラリ等の共通基盤技術を公開し、開発初期のハードルを下げるとともに、他方では、拠点の継続的な運用と競争力維持のためのノウハウは公開を限定するなど、適切なオープン・クローズ戦略をとっており妥当。 具体的なアウトカム数値目標を掲げることで、事業の内容やその進め方がより明確になっており、また、革新的アイデアを持つ中小企業・ベンチャー等の AI チップ開発を加速、そのマーケットインを促進し、2023 年以降の実用化率 50%を超える見込みを得ていることは評価できる。 2023 年度より拠点の本格運用をスタート、なかでも、28nm と 12nm のプロセス IP を整備しつつ、オペレーティングシステムとアプリケーションが動作する AI アクセラレータを含む大規模な SoC を開発し、その安定動作を達成。 	<ul style="list-style-type: none"> AI チップに限らず半導体設計業界全体にとって、教育・人材育成は今後ますます重要となる中、今回の取り組みを通して、若手だけではなくリスキリングなど、設計人材育成の必要性の訴求が望まれる。 拠点を維持していくためには、運営資金の獲得や利用促進を図るビジネスモデル等の確立が必須と考えられる。また、開発した設計評価プラットフォームを活用する方法はまだ議論の余地があると感じられるため、継続的に議論し更新していくことが期待される。 実用化・事業化に向けて、本事業で整備した拠点を活用し、成果を活用したい企業等との協業や、新市場の短期立ち上げを訴求し半導体設計に付加価値をつけていくなど、AI チップのビジネス市場をより活性化する活動を担っていくことも期待したい。 			